



主催の兵庫県・井戸敏三知事

フ オーラムの冒頭、兵庫県の井戸敏三知事が同県の少子化対策の取り組みを紹介するなかで、大事なことは、仕事中心から生活中心の働き方に社会全体として変えていくことだ」などと挨拶した。続いて村木厚子さんが「子どもをめぐる環境とこれからの子ども政策」と題して基調講演。その後、3人の鼎談に移り、村木さんが遭遇した「あの冤罪事件」から話が始まった

竹中 村木さんと大平さんは私の尊敬する長年の友人です。この顔ぶれで話ができるということで、今日を楽しみにしてきました。

「存じのように村木さんはある日突然、冤罪に巻き込まれ、新聞やテレビで『極悪官僚』みたいに報じられました。一般の人はそれを信じたと思います。私や大平さんは彼女がどういう人が骨の髄まで知っていますから、絶対におかしい。こんなこと許されへん。完全な名誉回復

をするんや」と情報発信を始めました。あの時、ご本人は疑われていることをどうやって知ったのでしょうか？

村木 まず新聞やテレビで、「捜査関係者によれば、自称障害者団体『凍の会』元会長らから偽の証明書発行を頼まれた厚労省係長がそれを発行。上司である村木さんが指示した」ということが報道され、私もそれで知りました。それから「ああいうこと言われていますが、どうですか？」と記者たちに追いかけて回され、職場にもいられず、自宅にも戻れない日が3週間ほど続いたんですね。その間、検察からの連絡はありませんでした。

竹中 そうしてある日、東京から大阪に（任意で）呼び出された？

村木 ええ、日曜日でした。それで、その日の夕方、大阪地検特捜部に逮捕されました。

竹中 証拠を示されて「逮捕します」と？

村木 いいえ。「証明書作りましたか？」「こういう人に会いましたか？」「こういうことを頼まれましたか？」などと聞かれて、身に覚えがありませんから、すべて「いいえ」と答えたら、逮捕されたんです。

大平 それまでに、先に逮捕されていた部下の虚偽の証言が「供述調書」

という形ででき上がっていたんですね。後の村木さんの公判ではその部下の「被疑者ノート」が公開され、「言ってもいないことを調書に取られ、署名させられた」と判明しました。でも大阪地裁が逮捕令状を出す段階では、その調書は有効な証拠として上げられていたわけです。

竹中 ということは、村木さんは「やった人」という調書が作られていた？

大平 そうです。いわゆる「作文」というやつですよ。

竹中 逮捕された時はご主人が海外出張中だったし、家宅捜索はお嬢さんが一人で家にいた時。どう考えても理不尽ですよ。

村木 家族のことが一番心配でした。娘が私の逮捕を知らないうちに、テレビで「逮捕」と流れるのは嫌だと思い、「家族に連絡して」「弁護士さんと呼んで」と頼んだけど、受け入れられなくて。まだ逮捕前でしたから携帯で電話番号を探すフリをして、夫に「たいは」と3文字のメールを送信。逮捕後、検察官は押収した携帯を見て「あの女！」と腹を立てたと思いますが、これだけは譲れなくて。あとは夫がすべてやってくれると思っていた。

竹中 すっごい度胸！ 緻密な仕事ぶりとのバランスがすごいですね。

大平 私が「よんどころない」世界にいた時も、そんな機転は利かなかった。（笑）

竹中 拘留所の独房に入れたら、普通の人は本当に参ると思うんですが、村木さんは否認を貫き通しました。なぜそれができたのかという、一つは「天然ボケ」（笑）。基調講演で、初産したお嬢さんを抱いて退院する際、「これ（お嬢さんのこと）、持って帰ってどうしたらいいの？」と帰ったと話していましたが、彼女の魅力の一つがこの天然ボケなんです。何しろ拘留所へ面会に行ったら「麦ご飯はいける」って言いましたからね（笑）。もう一つは職業人としての意識。自分を取り調べた検事が部下だったから観察したり、担当の女性刑務官の待遇について考えたり。普通はあの状況でそんな発想をしますか。村木 人間の好奇心というのは案外旺盛なものなんです。苦しいなかでも一つひとつの発見が楽しみとなり、救いとなるんですね。たとえば拘留所でも所持金があると買い物ができる。リストを見て注文するわけですが、チョコレートも下着も乳液も、どんな商品が来るのか興味があるでしょ。二度と体験できないかもしれないわけですから、後で「あれは何が来たんだろう？」と思うよりも、いま注文して何が来るか見てお